

いぬがおか I



2000 No.137

東京都世田谷区歯科医師会会報



東南アジア旅行の知的楽しみ方

「インド化」された国々へ 遺跡の旅 - 区

下馬部会 斎藤賢一

今回は西インドのお話をしたいと思います。インドというとすぐに思い浮かべるターバンや原色のサリー、マハラジャの宮殿、砂漠とオアシス都市、ラクダの商隊など「アラビアンナイト」の世界が西インドのラジャスターン州にあります。またここに8～14世紀に建てられたヒンドゥー寺院が点在しております。まずは旅の入り口であるジョードプルへ行きましょう。私が旅行した8月には飛行機が運航していなかったためデリーからジョードプルまで電車で移動することにして、オールドデリー駅へ行きます。この電車はデリー～ボンベイをむすぶ特急で、夜の10時頃出発して朝の7時頃着きます。私たちの車両はエアコン付きの一等寝台という、日本のB寝台と同じ様なもので、上下二段になっています。まずは荷物をとられないようにチェーン付きの鍵をつけなければなりません。インドの駅にはあらゆる物売りがやってきます。向こうから体中にチェーンを巻き付けた鍵屋が来ました。これを買って座席の下のパイプにくくりつけます。インドの電車に乗るときに一番気をつけなければならないことは冷房です。インドでは冷房が強いほどサービスが良いという不文律がありますので、外は30度以上でも車内は15度ぐらいまで冷やします。乗務員から毛布をもらって厚着をして寝ます。朝チャイ（ミルクティー）売りが来て暖かくとも甘いチャイを飲んでいたらジョードプルに着きます。ジョードプルはタール砂漠の入り口にあたり、とても大きな町です。これから旅をするラジャスターン州はラージプートという人々がそれぞれの地域を支配して城郭や宮殿を作りました。ラージプートは5世紀以降に中央アジアから進出してきた種族と西インドの土着の民が融合しヒンド



写-1 「メヘランガル城」ジョードプル

ゥー化してクシャトリア（武士階級）の子孫と称し西インド各地に王国を作りました。ジョードプルはマールワール国の首都で120mの岩山の上にメヘランガル城があります（写-1）。

ここから眺めますと町は一望でき、民家が水色に塗られていますので全体が湖の様に見えるブルーシティと呼ばれます。ちなみにこれから訪れるジャイサルメールはイエローシティ、ジャイプールはピンクシティと呼ばれています。ここから車で2時間余りのオシアンという小さな町に8～9世紀の北型ヒンドゥー寺院が12建立されています。一番古いハリハラ寺院は5点型で北型独特の砲弾型シカラで訪れる人もなく周囲は荒れ果てた林になっており野生の孔雀が沢



写-2 「ハリハラ寺院」オシアン

山おります(写-2)。

ピブラデヴィー寺院は9世紀の一番後期の寺院ですが壁に素晴らしい彫刻が残っております(写-3)。



写-3「ピブラデヴィー寺院」オシアン

今夜はウマイド・パワン宮殿に泊まります。この宮殿は旧王族が居住しており、一部は博物館に、一部はホテルに利用されています。西インドに行ったらぜひ宮殿ホテルに泊まることをお勧めします。ここから次の目的地ジャイサルメールまでは約8時間のドライブです。風景は西に行くほど緑がなくなり、道路の両側も土や小石から砂に替わります。いつも見慣れた荷物を運ぶ牛もラクダに替わり、山や丘もなくなり砂丘も所々に見られます。太陽が落ちて周囲がオレンジ色から紅色に変わった頃、砂漠の中にジャイサルメールのシンボルであるシタデル(城塞)が現れます(写-4)。



写-4「シタデル」ジャイサルメール

このシタデルの中で人々は千年前と同じ様な生活を続けています。中世のままの町並みは細い石畳が網の目のようにめぐらされ、この城下町を散策しているとタイムスリップしてしまったような錯覚に襲われます(写-5)。



写-5「シタデル内部」ジャイサルメール

ホテルは昔の隊商宿(キャラバンサライ)を改造したものでとてもムードがあります。ジャイサルメールのレストランはほとんど建物の屋上にあり星を見ながら食事が出来ます。ここから車で1時間の所にとっても美しいサムという砂丘がありこれからラクダに乗りに行きたいと思います。昼は40度以上になるので涼しくなった夕方がお勧めで砂紋がとてもきれいです。ラクダは立ち上がる時がとても恐いのですがなかなか気持ちの良い乗り物です。第二の目的の寺院があるキラドゥへは砂漠の道を南に5時間ほど道に迷いながら走ると、サボテンの林の中に北型のシカラが見えてきます。ここには10~11世紀の5の寺院が残っていますがかなり荒廃しています。このうち2つの寺院がヴィシュヌに3つがシヴァに捧げられています(写-6)。

基本的には北型であるが独特の形をしており、柱や壁面すべてに高密度の彫刻が施されています。3つのシヴァ寺院は同じ形をしています。それにしてもこのような不毛の場所に寺院を建立したのかとても不思議です。いったんジョードプルに戻りそこから南に360kmほどい



写-6 「シヴァ寺院」キラドウ

ったところにあるウダイプルに行きます。この途中にヒन्दゥ寺院やジャイナ教寺院が点在しているので見学しながら行きます。風景は今度は逆に南下するにつれて緑が多くなってきます。しばらく走ると道は山の中に入って行きます。この山間の奥にインド建築の傑作といわれるジャイナ教のアーディナータ寺院があります。周囲には何もなくダルマシャーラー（巡礼宿）があるだけですがこの山奥に沢山のジャイナ教の巡礼者がバスなどでやってきます。アーディナータ寺院は15世紀に建立され、すべて白大理石が使用され床以外のあらゆる部分が彫刻されています（写-7）。



写-7 「アーディナータ寺院」ラーナクプル

とても巨大な寺院ですが手を抜いたところが一つもありません。ここにはレストランはありませんがダルマシャーラーでは是非ジャイナ教のベジタリアン料理を食べてください。ここから

山を下って4時間ほどでウダイプルに着きます。ここはラージプート族の有名な王ウダイ・スィングによって作られたメーワール国の首都です。ダムを建設してピチョーラー湖とファター湖という2つの大きな人造湖を作りその周囲に町が広がります。中心はウダイ・スィングによってピチョーラー湖畔に作られたシティーパレスという王城です。その規模はラジャスターン州最大で、内部は狭い回廊や階段で迷路のようになって各宮殿をつないでいます。この宮殿の中でもモル・チョウク（孔雀王庭）のモザイ



写-8 「レイクパレスホテル」ウダイプル

クはみごとであります。ここも一部ホテルとして解放しておりますが、私たちの泊まるホテルはこの王宮の前のピチョーラー湖の中之島に作られた離宮を改装したレイクパレスホテルで、外国人観光客にとってあこがれのホテルです（写-8）。

宿泊客はもちろんのこと、見学に来た観光客も記念写真を至るところで撮っています。私たちの目的はここを基地としてウダイプル周囲にある遺跡の見学です。北へ25kmいったところに10世紀のサース・バフー寺院があります（写-9）



写-9 「サース・バフー寺院」ナーグダー



写-10 「サース・パパー寺院、入り口の彫刻」 ナグダー

9、10)。

入り口にはめずらしい三連の門が立ち、細部の彫刻も素晴らしい北型のヒンドゥー寺院です。東南60kmのアンビカマター寺院は10世紀の建立で、壁面の至る所に神々の像や天女像が彫刻されており、カジュラホ寺院群の先駆的な存在とみなされております (写-11、12)。



写-11 「アンビカマター寺院」 ジャガト

次に車で2時間ほど走ると山の頂上全体が城塞になっているチットールガルが見えてきます。ここはウダイプルの前のメーワール王国の都城でイスラムの攻撃に3度合い、ラージプートの戦士達は討ち死にし、その妻女達は集団殉死して貞操を守った悲劇の場所です。この城塞の中心には宮殿がいくつもあり、ヒンドゥー寺院、ジャイナ教寺院も沢山あります。ここに戦



写-12 「アンビカマター寺院、天女」 ジャガト

勝を記念して建てたヒンドゥー教の勝利の塔と、ジャイナ教の名誉の塔があります。勝利の塔は内部に入ることが出来、9階まで細く急な階段を登ると最上階から素晴らしい眺めが待っています (写-13)。



写-13 「勝利の塔」 チットールガル

旅の楽しみは日常からの脱出=非日常であるとするれば西インドの旅はまさに千夜一夜の物語で王宮に泊まり、ラージプートの栄光に思いを馳せる素晴らしい旅になると思います。